

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100073		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	生協のんびり村 グループホームほんわか		
所在地	愛知県東海市加木屋町栗見坂12-1		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2394100073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様が出来る事、やりたいと思う事を最大限かなえられるよう職員がサポートする。季節を感じられる行事や日々の散歩、外出を多く取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療と介護の活動を続けてきた南医療生活協同組合が、「のんびり村」として新たに開設した事業所のうちの一つである。木のぬくもりを活かしながら、廊下、食堂、リビングには、生協会員からいただいた調度品や利用者の手作りの作品等が置かれ、落ち着いたある雰囲気を出している。ホーム内は広々としているが、廊下やリビングに調度品で区切り、プライバシーにも配慮している。ホームでは、外出する機会をつくり、毎日、散歩を兼ねた買い物に全員が均等に行ける様に声かけに心掛けたり、外食の機会もつくっている。さらに、利用者の希望で一泊旅行が計画され、本人も交えて旅行者と話し合い、家族も参加されて実行できたこともある。また、毎月家族に郵送されるホーム便りには、外出時や祭りの参加時、誕生会の時などの写真が掲載され、ほのぼのとした様子が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合いを行い、共有できる目標を作り入居者様も見える位置に提示している。しかしまだ目標をつくって日が浅く、十分に実践できているとは言えない。	当初から作られている理念から、より実行しやすい目標を立てて、昨年職員全員で考えてながら2項目を掲げている。理念は、利用者の筆によって、いつでも見られるように食堂に貼り、日々実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、地域の市民館へでかけたり、お祭りには参加をしている。こちらから出向くことが多く、地域の方に来て頂くことが少ない。	町内会には加入していないが、地域の祭りに参加し、健康チェックや出店を出して交流をはかっている。またのんびり村にて、流しそうめん、もちつき大会を開催して、地域の方と一緒に実施して150名の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせてはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は入居者様も運営推進会議に参加していただくことができた。入居者様の状況をより理解している現場の職員の参加ができることより良いと考える。	年6回開催し、地域包括支援センター職員も交えて行い、9月の会議より利用者も参加された。地域の行事、ホームの行事等の案内や無縁社会や孤独死をなくそうという取り組みを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市長村との連携、連絡はほとんどとれていない。	市内の同業者との連絡会を市役所と連携をはかり立ち上げ、第1回目の会議を昨年11月に開催し、連絡会の代表となる。また、運営推進会議の報告を行政機関の担当者を持って行き関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員にも身体拘束をしない為の意識付けをし、取り組んでいる。玄関の施錠については原則していないが、やむを得ず施錠することもある。	玄関の施錠をせず、さりげなく見守りながら行くようにしている。窓も全開でき、洗濯物を干したり庭に出ることも可能である。利用者の居心地が良いように、職員全員で勉強会を開いて身体拘束をしないケアに心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしないが、関連法について勉強する機会が設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詳しい内容を知らない職員もいるが、学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会を行い、利用者様、家族が情報交換、思いを伝える場を提供することができた。	食事をしながらの家族会を開き、家族の出席があり、利用者から家族への手紙も用意され親睦を深めた。また、独自のアンケートを作って運営に活かしている。ホーム便りも写真を多く掲載され、家族に普段の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎月の会議など、必要に応じて話し合いの場を設けている。	月1回、職員会議がある他、日常的にも職員は意見や要望を言うことができる。また、年2回の個人面談も設け、話し合いの場を設けている。	現状、管理者が様々な業務を兼務しているため、職員のことを把握しきれないこともあるかと思われる。そのために職員体制も考えているが、より職員が意見等を言いやすい環境作りも必要かと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人の規定による。個人の努力や実績が少し反映されるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせをして機会を持ってもらえるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会は少ないが交流はある。その時々によって参加できる職員、できない職員がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	昨年と変わらず、グループホームの対象であるかどうかの判断をさせていただくとともに、対象外であると判断した場合には他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年家族参加型の1泊旅行を企画し、半数の家族の方に参加していただいた。年末年始もほとんどの入居者様が家族と外出、外泊をして過ごした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や自宅周辺へ出掛けている。	利用者が市内の方も多く、週に1度訪問する家族もあり、美容院へ行ったり、月参りの帰りに外食される方もいる。また、留守になった家へ柚子を取りに職員と同行して、ホームの風呂で柚子湯を楽しまれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に職員が間に入って関係を取り持つ事もあるが、できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別養護老人ホームへ入居された方の様子を伺いに行ったこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。家族会の際に入居者様のこれまでの取り組みをまとめ、参加していただいた方に自由に見ていただいた。	以前は独自の様式を使っていたが、最近センター方式を取り入れて、担当職員からの記録や報告を関係者全員で関わっている。本人から得られない場合は、家族から聞いて全員で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族が来所された際に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここの趣味や好きなこと等を無理のない範囲で取り組んでいただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ごとに担当職員を決めて介護計画を作成している。	職員2人のペアで、3人の利用者を担当する方法で、写真入りの計画書を作り、家族にも見てもらっている。毎日のミーティング、月に1回カンファレンスが行われている。見直しは1年だが、変化のある利用者は随時確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい気付きは記録に残し、記録を通じて共有し実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買い物、手芸など入居者様が希望されたこと実現できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による生け花やハーモニカ演奏、地域の組合員さんの協力を得て餅つきや流しそうめんを行うことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回の往診や、体調の変化があった際はかかりつけ医に相談をし連携をとっている。状態によって他の病院への紹介もしてもらっている。	他の医療機関も可能なが、全員が運営法人の診療所医師をかかりつけ医とし、往診を毎月1回受け、急病の時は職員が付き添う体制である。通院は、家族にもお願いし、時には職員も同行して様態を把握することもある	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状は看護師の配置はないが、必要に応じて相談をできる看護師がいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や入院中の対応、退院後のことについて相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の基準として車椅子の方は考えていないので、重度化された場合は退去をすることを入居時に説明している。	重度化された利用者はいないが、利用者、家族の状況をみて話し合いを行い、将来的には訪問看護を入れて医療連携をしてゆきたいという考えもある。職員のレベル、家族との協力体制、車椅子対応が可能かどうか、今後の課題は多い。	利用者の重度化が徐々に進みつつある中、継続した話し合いを行いながら、利用者が一番安心する体制を築いていくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。緊急時は地域の方、組合員の協力も得られる。	地域との協力関係をつくるため、組合員の方4名が避難訓練に参加して実施した。さらに、緊急時には村内の長屋の方(自立の方)にも協力体制をお願いしている。	村内の他事業所とも連携をはかりながら、夜間を想定した避難訓練も実施しながら、利用者と職員の不安を少しでも除く取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的にはできていると思われるが、職員や入居者様の状況によっては出来なくなってしまうことがあると思われる。	毎月1回、題目を決めて接遇会議を開き、言葉遣いや服装に気をつけるようにしている。また、家族にアンケートを出して評価してもらった。今回の題目は「身だしなみ、言葉遣い、表情」であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を引き出せるように、職員は入居者様に様々な質問や声かけをするよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り入居者様の希望に沿えるよう努力はしているが、希望が多岐にわたる場合や職員の体制が悪い時には希望に沿うことができない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添えるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを聞き出し、献立に組み込む、入居者様の出来る事は極力入居者様に取り組んでいただけるように支援するよう心がけている。	食材の買い出しや畑でとれる野菜と飼っている鶏の玉子等を使って、利用者もできることには参加して調理し、行事食のおやつ作りも行っている。また、外食の機会もつくり、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前年同様できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、歯磨き、うがいの促しを必要に応じて援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で現状を話し合い、その方にあった援助方法を考え、支援している。	排泄のリズムを把握しながら、トイレ誘導をしている。その結果、紙パンツから布パンツに替わった方がいる。夜間、トイレでの排泄に不安がある場合は、ポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や水分摂取の促しなどに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に添えるように取り組んでいる。	基本的にお風呂は毎日入る事ができるが、1日おきの利用者が多い。入浴を拒む方には、声掛けを工夫して入浴をすすめている。順番は特に決めていない。時には、利用者の家から持参した柚子で入浴を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前年度と同様にできている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	極力叶えられるよう支援している。今年度は家族、組合員の方の協力もあり1泊旅行に行くことができた。	外出を兼ねた買い物には、利用者全員が均等に行けるように心掛けている。毎月、外出する日を作る他、時には、村内の自動車の空き状況によって、その日に出掛けることもある。また、家族とも話し合い、一泊旅行も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方には管理していただいているが、金額が高額な場合は説明をし、納得していただいた上である程度の金額を残してお預かりさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、ご自分でできる方、援助があればできる方には取り組んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品を飾るなどして努力はしている。	廊下や食堂、リビングが広い為、会員からいただいた調度品や手作りの作品で、仕切りや空間を埋めて、落ち着いたある雰囲気をつくっている。また、居間にはテレビではなく、ラジオがBGMとして流れていて、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を仕切るなど工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際などにご家族に持ってきていただくようお願いをしているが、なかなか増えていない。	部屋は大きな窓があり、洗面台も備えてある。居室によっては、床にマットを敷いたりしている。さらに、使い慣れたタンスも違和感なく配置され、鏡台や気に入った雑誌や作品が並べられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の様子を見ながら日々改善の努力をしている。		

(別紙4(2))

事業所名 生協のんびり村 グループホームほんわか

目標達成計画

作成日: 平成 23年 3月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	管理者が様々な業務を兼務しているため、職員のことを把握しきれないこともあるかと思われる。その為に職員体制を考えているが、より職員が意見等を言いやすい環境作りが必要。	職員と管理者、職員同士の意見、考え、悩み、提案などが、スムーズに出せ、共有できるようにしていく。	①日々のミーティングの開催。 ②職員⇄リーダー⇄管理者の連絡、相談、連携をとれるよう、月報などを活用していく。	12ヶ月
2	12	利用者の重度化が徐々に進みつつある中、継続した話し合いを行いながら、利用者が一番安心する体制を築いていくことを望みたい。	利用者様、ご家族の皆様、職員が安心できる生活支援をしていく。	①訪問看護ステーションと連携して、24時間の医療支援体制を築く。	3ヶ月
3	13	生協のんびり村内の他事業所とも連携をはかりながら、夜間を想定した避難訓練も実施しながら、利用者や職員の不安を少しでも除く取り組みに期待したい。	避難訓練を行ない、職員が適切に動けるようになる。	①避難訓練を繰り返し行なう。 ②夜間を想定して避難訓練をしている事業所を探し、やり方を学ぶ。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月